

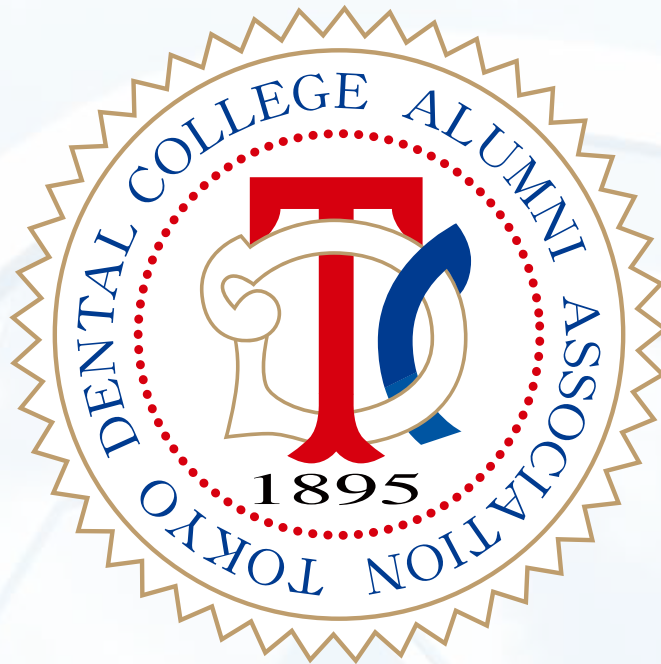


Tokyo Dental College Alumni Association

2023

同窓会 案内

東京歯科大学同窓会



同窓会は新進会員の皆様を心から支援していきます。



東京歯科大学同窓会
会長 澁谷 國男

長年にわたる学習や研修の成果が実り、いよいよ希望に満ちた歯科医師としての生活が始まります。明治 28 年に本学の建学者である血脇守之助先生が、歯科医師は、生涯を通じて歯科医学と医療技術の研鑽を行い、共に学んだ同窓が助け合い、さらに豊かな人間性を育むことを目的として同窓会を創設されました。現在まで、120 年を越える同窓会の活動により、すべての都道府県におられる、同窓が助けあい、連携して、各地域の方々の健康の担い手として、社会に多大な貢献をされています。

皆様は卒業と同時に全員の方が同窓会の会員となります。さらに、卒業後、5 年目までは同窓会の新進会員となります。同窓会は新進会員の皆様が、素晴らしい歯科医師人生を歩むために、全面的な支援をしています。

新進会員が誰でも参加できる、若手支援のための症例検討会などを、同窓会において毎週のように開催しています。また、若手の会員のための卒後研修セミナーや、さらに高度な臨床セミナーも開催しています。さらに同窓会のホームページなどを通じて、新進会員の方の各種相談などにも対応しています。

皆様にはご自分自身で同窓会や歯科医師会などに積極的に参加され、ご自分の力で日本の歯科医療を、さらに発展、充実されることを大いに期待しています。

ようこそ同窓会へ



東京歯科大学ご卒業、おめでとうございます。

すべての卒業生は、新たに全員東京歯科大学同窓会員となりました。

これまで、歯科医師になるため、国家試験合格を目標としてきた君たちですが
これからは、良い歯科医師そして良き社会人になることを目的にしなければなりません。

良い歯科医師は、なんとなく想像がつくかもしれませんが、

「良き社会人」のイメージは持っていますか？

私たちが同じ気持ちで卒業しました。

そして、そこから一歩ずつ歩んできました。

社会人として

恋愛、結婚、家づくり、出産、子育て、趣味、生きがい、介護、近親者の死、
子孫の繁栄そして老い

歯科医師としても

研修医、研究、教育、学位取得、就職、開業、卒後研修、そして社会貢献

良いことばかりではなく、常に悩みは尽きません。

収入、資金繰り、技術、患者さんやスタッフとのコミュニケーション、健康保険、自費診療、診療トラブル、
医療訴訟、税金、労務関係 etc.

それらを、1つずつ解決しながらも改めて「東京歯科大学卒業生」で良かったと感じる日が必ずやってきます。

それは、真摯に誠実に社会に向かってきた多くの先輩方が築き上げてきた信用

そして、血脇先生が標榜した「家族主義」に基づくものなのです。

想像の中の10年後、20年後。

必ず先輩方の経験が様々な形であなた方へ伝承されていきます。

さて、歯科大学の同窓会って何でしょうか。

これまでの学校同窓会とは大きく役割が違います。

仲間との絆を絶やさない目的ではありません。

「歯科」という分野において歯科医師として業界を支えあう同志という位置づけ。

そして、国民に最適で良質な歯科医療を提供するための社会的組織でもあるのです。

古くは歯科医師国家資格の制定から、近年では東日本大震災やこのコロナ禍においても、しっかりと日本の
歯科社会を支えてきたのは、個人ではありません。目的を持った団体なのです。現代日本社会は責任の所在
を明らかにするため必ず裏付けを求めます。何の表札や看板もない個人では地域医療や社会への貢献は
とても難しいのです。

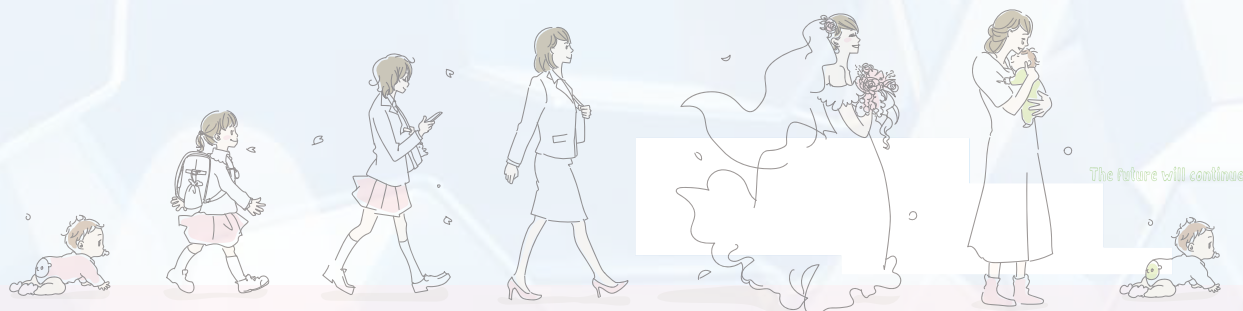
そしてその歯科社会を過去もそして現在も牽引リードしているのは紛れもなく東京歯科大学同窓会なのです。

遠くにあると思えた歯科界そして歯科行政も、実は東京歯科大学同窓会であれば身近な存在になります。

私たちは君たちへの最初のメッセージとして、共に130年余りの歴史と伝統を育み、母校後輩たちに
しっかりと継承していくことを強くお願いしたいと思っています。

新たなるご入会、心から歓迎いたします。

東京歯科大学同窓会 専務理事 小枝義典 (S59 卒)



新進会員って？

Q. 同窓会って何をしているの？

私たちの同窓会は、1895年(明治28年)6月「高山歯科医学院院友会」という名称で設立しました。単に同窓生が集まり親睦を深めるだけでなく、研究機関としての役割を期待し発行された機関誌は、現在の「歯科学報」に継承されています。



初代会頭
高山紀齋先生



第2代会頭
血脇守之助先生



機関誌と歯科学報

専門学校時代経て、戦争を乗り越え1946年(昭和21年)11月現在の東京歯科大学同窓会になりました。

同窓会の事務局は水道橋校舎別棟にあり、会員の先生方や支部の現情報の整理、各種会議の準備など様々な事務処理を行っています。

近年の大きな災害に対して、被災地へ支援金をお送りしたり、新型コロナウイルス感染症対策の情報提供や「特別支部助成金」という形で各支部へ納入会費の15%を支給、準会員へも同様に助成(200万円)をおこないました。

また、同窓会には7つの委員会があり、担当役員と委員が事業を行っています。(同窓会報の作製、学術セミナー、多方面で活躍する人材育成、ゴルフ大会等々)

Q. 同窓会ってどうやって入る？

本学を卒業すると自動的に同窓会に入会します。入会手続き不要。退会規定はありませんから、生涯同窓会会員です。

Q. 同窓会の会費は？

年会費

・準会員	本学在学中	会費なし
・正会員	卒後5年目までの新進会員	10,000円
	卒後6年目～10年目の若手の会員	10,000円
	卒後11年目～50年目の会員	20,000円
	卒後51年目以降は会費免除	

会費は各種事業を行うための事業費、同窓会会員への支援、大学への支援、事務局の維持費などに使われています。

Q. どんな支援？新進会員であるメリットは？

A. 世代・地域を超えた同窓の交流など以下のような多くの支援を行っております。

新進会員のつどいは無料で参加できます。

東京歯科大学同窓会主催の各種セミナー、講演会等は、無料もしくは割引料金で受講できます。

他大学同窓会主催のセミナー等にも無料で受講できるものがあります。

2022年 新進会員のつどい

支部、地域支部で開催される学術講演会、保険講習会に参加できます。

皆さんの生の声を支部長を通して本部に伝えることができます。

80歳、100歳を迎えられるとお祝い金が贈呈されます。

また、死亡時には弔慰金が支払われます（会費未納者には支払われません）。

年4回発行の会報で、同窓会、クラス会、大学の情報がわかります。

同窓会ホームページのメールBOXから質問、相談ができます。



先輩から卒業生の 皆さんへ・・・

高木 貴博

122期・平成29年卒

東京歯科大学卒業後、
東京歯科大学千葉歯科医療センターにて研修了
現在、東京歯科大学大学院歯学研究科
解剖学講座在籍

Yell
ご卒業おめでとうございます

Q：今の講座を選んだ理由は？

卒後研修医として過ごす期間の前半が終わった頃、いくつかの興味ある診療科が出てきました。しかし決めることが出来ず、色々と思いを馳せておりました。そこで大学院に進学した先輩に相談した際、大学院生の生活や目的などを聞き、今までの選択肢にない新鮮な方向性が自分の進路候補の1つとなりました。一生歯科医師として働いていく生活のスタートに、少し研究生生活を入れ込み、かつ診療も少しずつ学んでいけることが自分には適していると考えがまとまっていき、次は進学する大学院の候補を探しました。その中で研修後半に、特に訪問診療や摂食嚥下に強く興味を持ち、研究を行うのであれば「摂食嚥下」に関連する研究をしたいと考えるようになりました。そして解剖学講座で「摂食嚥下」に関する様々な視点からの研究を行っていることを聞きました。そこで主任教授にその点をお話し、ご理解いただき受験させていただくことになりました。

Q：歯科医となった生活はどうか？

解剖学講座に在籍して4年目を迎え、月日の経つのが早いと感じますが、診療では多くの症例を診ることが出来、今でも走馬灯のようにそのことが頭の中をよぎります。診療開始した当初に、うまくいかなかったことなどはもちろん、患者様が望む義歯などの補綴物が装着でき、調整後に満足そうなお顔を拝見した瞬間、等々です。ただ思い返せば、いつも診療所の院長や常勤の先生、また大学の医局内では、大学院生の先輩や同級生に多くの助言や励ましの言葉をもらい、大学内の他講座の仲間にも相談に乗ってもらいました。このような環境で歯科医師としてのスタートを切れたことは、本当に解剖学講座に大学院生として進学してよかったと考

えている点です。

Q：歯科医師となって楽しさや困難は？

「楽しさ」は患者様とのコミュニケーションであり、満足していただけた時の患者様の笑顔を見ることです。そのために、「次の診療」のために考える最大限の勉強と準備をすることの大切さについて、ひしひしと感じている今日この頃です。「困難」は慢性的な痛みが緩解しない患者様や、補綴物に少しの違和感を持ち続けている高齢の患者様に向き合う時です。しかしながら、そのような患者様には一緒に寄り添い、問題を解決していくプロセスが大切だと学びました。そんな自分を担当歯科医師として患者様は見てくれる、そして評価してくれる、ということも学んだ3年間でした。

Q：新しくチャレンジしている事 (遊び・仕事・趣味)は？

基本的には自分がまだ経験していないことはたくさん経験したいと思っています。その中でもみんなとたくさん共有できることとしては、僕の場合はゴルフや釣りです。自分が好きなのはもちろんのことですが、周りにも多く、その場で歯科関係やそれ以外のことも話をして、参考になることもたくさんあります。

Q：チャレンジしたいこと？

これから臨床に携わる中で治療における感覚や経験もとても大事ですが、この解剖学講座での大学院生活での研究における論理的な考え方は臨床においても重要であると考えるので、これからの経験も含め、日々の臨床に生かしていくように努めていきます。

大学院生というと今の研修医の先生からすると抵抗感があり、臨床に進む先生と大きな差が生まれてしまう不安などがあ



写真右が高木先生

ると聞きますが、日々の努力でその差を少しでも埋めることは可能だと思います。また、大学院生活の中で研究分野を経験することで、これからの自分たちの歯科医師人生の幅が広がるのではないかと僕は考えます。

Q：卒業生の皆さんへ

僕は普段、研究においても診療においても何か悩んだり、疑問に思ったことなどを身近な友人に気楽に相談したり、文献を読んだりしています。もちろん自己解決できれば問題ありませんが、他人の意見や考えなどを聞くことで自分の考える幅も広がると思います。これから先でもいろいろと悩んだりすることはたくさんあり、新天地に向けての不安や診療に対する悩みもあるかと思いますが、いろいろな人に相談してみたり、身近な人に打ち明けるだけでも気が楽になったりすると思いますので、ぜひ消極的にならず、話してみることをお勧めします。

先輩から卒業生の 皆さんへ・・・

中里 伊吹

124期・平成31年卒

東京歯科大学卒業後、
東京歯科大学水道橋病院にて研修修了
現在、岩手医科大学医学部在籍

Yell
ご卒業おめでとうございます

Q：学生時代の生活は？

新小岩から毎朝始発で御茶ノ水のコンビニに行き、8時まで働いてから授業を受け、放課後は弓道部の練習に参加するか、新小岩の唐揚げ屋さんで再び働くという生活を6年間送っていました。1週間で使えるお金は5,000円、教科書は先輩のお下がりか図書館、新小岩では築40年の木造アパートに住み、隣の住人は阪神ファンなのか、野球の中継が始まると絶叫しながら応援する始末。その騒音のなか、絶対に留年することができないプレッシャーを背負い、日夜勉強していました。その甲斐あって、歯学部時代は台湾とアメリカのエレクトィブスタディに参加する機会を頂きました。卒業後は東京歯科大学水道橋病院で研修を1年間行いました。歯科とは無縁の家系であった私に一から医療を叩き込んでくれた東京歯科大学に感謝しています。これらの経験が今の私の礎になっていると思います。

Q：医学部卒業までのみちのりは？

現在は岩手医科大学附属病院で病院実習を行いながら、充実した日々を送っています。2年次編入が多いなか、岩手医科大学は3年次編入であり、入学直後から臨床科目を学ぶことができます。4月からは6年生となり、再び国家試験受験生になります。以下は入学から卒業までのおおまかな流れです。

3年生4月～4年生6月：臨床科目をメジャー科からマイナー科の順に学びます。
4年生9月：CBT
4年生10月：OSCE
4年生11月～5年生6月：ポリクリ(27科を1週間ずつローテート)
5年生8月～6年生6月：スーパーポリクリ(希望科を9つ選び、1ヵ月ずつローテート+1ヵ月の地域医療実習)
6年生7月～：国家試験まで自習
6年生8月：第1回卒業試験
6年生10月：第2回卒業試験
6年生2月：医師国家試験



右から2番目が中里先生

メジャー科は内科・外科(循環器、呼吸器、消化器、腎臓、内分泌代謝、血液、免疫、感染症、肝胆膵、神経)、マイナー科は眼科、耳鼻咽喉科、整形外科、精神科、皮膚科、泌尿器科、放射線科になります。

地域医療実習は北海道から新潟まで全国の病院を選ぶことができ、私は盛岡赤十字病院で実習を行いました。大学病院では診察する機会が少ない風邪や下痢など、common diseaseを多く経験することができました。

オフタイムは市内の友人と安比高原スキー場でスノーボードをしたり、岩手県の秘湯巡りに行くこともあります。東北を旅行することで、患者さんとの会話の糸口やコミュニケーションのキッカケになることが多いです。

Q：後輩に伝えたいことは？

歯科医師国家試験合格が見えてきたら、歯科以外のことにも挑戦してみてください。医学部を例にすると、USMLE(United States Medical Licensing Examination：米国医師国家試験)や心電図検定、ファイナンシャルプランナーなどの資格を在学中に取得する人も珍しくありません。英語だけでも勉強してみると、今いる世界を広げられるかもしれません。私は研修医までにブラインドタッチを体得したいと思い、パソコンに触れるときは練習をするよう心掛けています。

Q：将来の展望について

私は岩手県医療局医師奨学生(産婦

人科特別枠)を受けながら医学部に通っており、現在の学費の大半は岩手県から出してもらっています。これは借りた年数分(私の場合は4年間)、岩手県で産婦人科医として働けば、返済は免除になる制度です。私が入学した年に募集が開始された奨学金であり、これをきっかけに東北の周産期医療が盛り上がりつつあった嬉しいです。

産婦人科は周産期・腫瘍・生殖・ヘルスケアと大きく4分野あり、対象が子宮・卵巣というだけで、それぞれ全く異なった学問になります。ポリクリでは、妊娠管理・分娩・産科救急など産婦人科独特の奥深さ・不思議さを学び、自分の判断で救える命の大きさも知りました。受精卵から終末期まで対応する学問的な面白さ・多様性、内科と外科の両方があること、そして一番助けたい人は誰だろうという観点で、産婦人科を選択しました。

Q：岩手県の周産期事情は？

岩手県は三次医療圏別の医師偏在指標において、医師が最も少ない県とされました。その中でも産婦人科医不足は特に深刻な問題です。岩手県は四国4県分の広大な土地を有しているにも関わらず、大学病院がたった1つしかありません。岩手医科大学の産婦人科は、最後の砦として県民の医療を守っており、妊婦さんや赤ちゃんに不利益のあることを一切許さないストイックな雰囲気があります。魅力がたくさん詰まった岩手県の未来を、小さな命を次に繋ぐことで守りたいと思います。

同窓会の交流

新進会員のつどい

新進会員のつどいでは、年齢の近い先輩の講演会、懇親会を企画しています。講演や対話による気づきと助言から、この会が若手会員の明日への確実な一歩を踏み出す機会となるはずです。令和5年度も、新進会員の企画による会を開催予定です。



未来の歯科界を担う若手会員が、世代・地域を越えた同窓の交流を通じ、将来に向かって希望に満ちた道を進めるように、ニーズにあった支援を行っていきます。



近年は、コロナの影響もあり、WEB上でのオンライン講習会を開催しており、診療により参加が難しかった先生でも参加しやすくなっていますので、是非、ご参加ください！



2019年 新進会員のつどい

同窓会の交流

会員活動推進委員会



本委員会は平成 28 年に創設された「女性会員活動推進委員会」を引き継いで活動して参ります。若手の会員・女性会員がより同窓会活動に参加しやすくするために、現状を把握し、今後の方向性を検討していきます。各支部の先生方と連携して情報を交換し、全国の先生方にそれらの情報を提供したいと考えています。また、「会員活動推進委員会」としての企画を立案し、若手支援ネットワークと同様に、若手の会員が同窓会をより身近なものに感じられるようにしたいと考えております。



ご存知ですか？「学校歯科医」

歯科医師は、歯学に基づいて傷病の予防、診断および治療、そして公衆衛生の普及を責務とする医療従事者です。

学校歯科医とは、学校保健安全法に定められている「大学以外の学校で、歯科健康診断や歯科保健指導、歯科保健教育などの職務を非常勤で行う歯科医師」のことで、学校保健安全法に定められた「学校歯科医の職務の準則」に従い、歯科医師であるとともに教育者として学校のなかで、児童生徒の健康と安全を守るために、学校関係者・学校医・学校薬剤師・地域の方々と専門を超えた連携を取りながら活動しています。

昭和7年学校歯科医会が設立されました。現在は公益社団法人日本学校歯科医会として、文部科学省を監督官庁として、学校歯科保健活動を実施しており、その活動が、DMFTの減少など日本の予防医学に関与してきたことは大きく評価されています。卒後の皆様の歯科医師としてのライフコースに学校歯科保健が何らかの形で組み込まれていくことで、次世代医療を考えるうえでの一助となることを期待いたします。

さて、歯科医師のライフコースの中で、学校歯科医はどのように委嘱され、どのように活動することができるのかについて考えてみたいと思います。

学校歯科医歴35年以上になる私の例ですが、開業後、すぐに地元歯科医師会・県歯科医師会・日本歯科医師会に入会し、その後小学校の学校歯科医に委嘱されました。私は小学校11年・中学校15年(5校ほど担当)・現在は県立高校と私立の保育園を担当しています。公立学校の場合、その委嘱は市町村の教育委員会に、県立の学校においては県の教育委員会がその委嘱を担います。私立学校の場合は、個別の対応となります。私の地元の歯科医師会では、市の歯科医師会が地元の学校(保育園・幼稚園・小、中、高等学校)を把握し会員の皆様にご担当頂いています。歯科医師会未入会の先生方は、学校歯科医としては任命されていません。このように学校歯科医と歯科医師会は大きな連携があることがわかります。

口腔疾患と全身の疾患の関与が明らかとなってきた今、8020健康長寿社会を実現するためには、歯科口腔保健が大変重要となってきました。小児期に身につけた正しい生活習慣が成人期、高齢期の健康につながり、口腔の健康のみならず、心と身体の健康を担ってくれるようライフコースアプローチという概念から学校歯科保健に取り組んでいきましょう。

卒後の皆様の歯科医師としてのライフコースに学校歯科保健が組み込まれていくことで「人間の生涯の大切な時期に直接関わられる学校歯科医」として活躍されることを願っております。

日本学校歯科医会副会長
齋藤 秀子(S48卒)



歯と口に関する
図画ポスターコンクール

学校歯科医のフィールドは広がっています。

- *学校健康診断及び事後措置
- *健康相談
- *保健教育
- *学校保健委員会・地域学校保健委員会での指導助言
- *養護教諭や学級担任による
個別指導や健康相談への指導助言
- *「食」教育の支援
- *スポーツ歯科医学を通じた学校安全への参画

マウスガード作成事業は、
花巻東・浦和学院・大阪桐蔭・新田の4校がモデル校です



日本学校歯科医会
発行の情報発信



<https://www.nichigakushi.or.jp>

先輩から卒業生の 皆さんへ・・・

柳田 陵介

124期・平成31年卒

東京歯科大学卒業後、
東北大学病院にて研修修了
現在、東京医科歯科大学医歯学総合研究科
摂食嚥下リハビリテーション学分野在籍

Yell
ご卒業おめでとうございます

Q：今の職場を選んだ理由は？

私は東北大学病院で臨床研修を終えた後、東京医科歯科大学の摂食嚥下リハビリテーション学分野に大学院生として入局しました。今いる分野とは違いますが、学生の中から衛生学講座で実験をしたり論文を投稿したりする機会をいただいたこともあり、卒業後は大学院へ進んで研究に打ち込みたいという気持ちがありました。加えて臨床もやりたい、また歯科医師という職業で高齢者の生活を豊かにするには何ができるだろうかと考えた結果、今の医局で研鑽を積むことに決めました。

Q：歯科医師となった生活はどうですか？

大学では摂食嚥下リハビリテーション科と快眠歯科（睡眠時無呼吸症の歯科的介入を行う科）で診療にあたり、外勤先では保存・補綴といったいわゆる一般歯科の経験を積んでいます。卒業からまだ

3年しか経っておらず知識や経験が圧倒的に少ないがゆえ、壁にぶつかることは多いですが、幼少期から歯科医師という職業を目指していたこともあり日々楽しく過ごしています。研究に関しても大学院1年目から複数のテーマに着手して一部は論文がアクセプトされたり、国内外の企業や他大学（工学部、芸術学部など）と共同研究を行ったりと、大変充実しています。

Q：学生時代にやっておいてよかったことは？

まずは東京歯科大学で6年間学べたことが本当によかったと日々感じています。講義や実習を通じて国試対策だけでなく、歯科医師となった後に仕事をしていくうえで必要なことを多く身につけられたと思います。歯科の知識に関してももちろんですし、PBLやOSCE対策でも学べたこと

は多かったです。また病棟業務や訪問診療では患者さんのみならず、ご家族や他職種の方々とも接します。そのため学生時代にアルバイトで接客業をしたり、学外に出て他学部の勉強会に参加するといった経験も大いに役に立っています。

Q：チャレンジしたいことは？

直近でチャレンジしたいことは海外留学です。国際学会で発表したり、国内外の他大学との交流に参加したりという大学院生活を思い描いていましたが、タイミングが悪く大学院生となったと同時にコロナが流行し、全てオンライン開催になってしまいました。海外に行ったからといって必ずしも新しい知識や技術を身につけられるとは限らないとは思いますが、海外生活を体験してみたい、また文化の違う場所でも仕事ができるか自分自身を試したいと思い、留学の奨学金に複数応募している最中です。

Q：将来の展望は？

今は本当によい職場に恵まれ、大学病院・外勤先のどちらも手厚く指導していただける環境です。摂食嚥下も一般診療も大学院生のうちに多くの経験を積み、自分ができる選択肢を増やすことで、患者さんの人生の終盤に彩りを添えられる存在になりたいと思います。そして研究者としては、自力で研究費の獲得・研究計画の立案から論文投稿までできるようになることが当面の目標です。

最後に

私は卒業してすぐに東京歯科大学を離れてしまいましたが、学術委員会の先生方と症例検討会で勉強させていただいたり、研修医の間は宮城県支部の先生方にご指導いただいたりと、同窓会の先生方にはいつも大変お世話になっております。皆さんも、同窓の先生方との連携を大切に頑張ってください。



先輩から卒業生の 皆さんへ・・・

岩崎 亮

124期・平成31年卒

東京歯科大学卒業後、
佐々木歯科・口腔顎顔面ケアクリニックにて研修修了
現在、東京歯科大学大学院歯学研究科
口腔病態外科学講座在籍

Yell
ご卒業おめでとうございます

Q：今の講座を選んだ理由は？

私は卒業後1年間、千葉県館山市にある佐々木歯科・口腔顎顔面ケアクリニックで研修医としてお世話になっておりました。開業医で一般診療はもちろんですが、入院病床や全身麻酔を行える手術室を有しており、口腔外科の手術や小児・障害者の齲蝕治療などを行っています。また、館山市が属する千葉県の安房地域は全国的にも高齢化が著しいところで、高齢者施設や患者様の自宅へ訪問診療を積極的に行っていて、私も外来診療だけでなく訪問診療の見学、治療を経験させていただきました。そのような環境で研修医として過ごすうちに、この職場で継続して勤務しようか、大学院に入学しようか、入学するならばどの講座がよいか考えておりました。そこで、職場の院長や先輩に相談した際、大学院での研究を通して、自分の臨床での問題点・疑問点の解決策の導き方、論文の読み方を習得したほうがよいというアドバイスを頂きました。また研修生活で外来診療や訪問診療を経験して、自分が歯科医師として働いていく上で、診療の幅を広げるために、口腔外科での知識や技術を習得したいという思いがありました。そこで、口腔外科でも様々な分野の研究を行っており、かつ診療も学んでいける環境が自分には適していると考えがまとまり、口腔病態外科学講座を受験させていただく事となりました。

Q：歯科医となった生活はどうか？

口腔病態外科学講座の大学院生として在籍して3年目を迎え、月日の経つのが早いと感じていますが、診療では多くの症例を経験することが出来ました。ただ、勉強すべき知識の量が学生時代とは違います。診療に必要な内容は当然勉強しなければなりませんし、症例ごとに合わせた計画、手技が必要となります。抜歯1つとっても、全く同じ歯はありませんし、治療の仕方も様々で、ときには自分の予



写真右が岩崎先生

期しなかったことも起こり得ます。患者の個性も様々で、治療の説明にも苦労する時もあります。しかしそのような時にはすぐに自分で学習する環境がありますし、自分で解決できないときには医局内の先輩や同級生に多くの助言や励ましの言葉ももらい、相談に乗ってもらいました。このような環境で歯科医師としてのスタートを切れたことは、大学院生として進学しよかったと考えている点です。

Q：新しくチャレンジしている事は？

私は昨年から口腔病態外科学講座に所属しながら、生理学講座にお世話になり研究を進めております。最初に基礎系の講座で研究をするということが決まったときには、臨床とはまた違った知識が必要で、難しそうだなと考えておりました。確かに研究が始まってみると、今まで見たことがないような機械での実験や、学生のときに聞いたことがある研究の方法ではあるけど、いざやってみると難しいということがたくさんあります。また自分が期待していた結果にならなかつたりして悩むことも多々あります。基礎系の研究は、臨

床にすぐ反映されるわけではないので、自分でも研究をやっている意義がわからなくなるときもありましたが、生理学講座の先生方は忙しい中、一緒に考えてくださったり、ディスカッションの時間を設けてくださったりしてくださり、そのような時間は自分でも勉強になり、非常に有意義であると感じております。同時に将来の歯科診療に少しでも反映される研究成果を出したいと感じるようになってきました。

最後に

学生時代は定期試験や総合試験などにおわれゆっくり将来について考えたことはなかったように感じますが、直近では卒業後の研修先や研修医修了後の進路の決定など、今後の歯科医師人生に関わってくるような選択の場面が多くあります。自分の責任で最終決定することが大事だと思いますが、悩んだ際にはいろいろな先輩の話を聞いてみて視野を広げてみてください。またこの企画により少しでも選択の幅が広がれば幸いです。卒業される皆さんのそれぞれの選んだ道でのご健闘をお祈りいたします。

同窓会の交流

全国ゴルフ大会



開催予定：令和5年9月18日(月・祝) (武蔵丘ゴルフコース(埼玉県))「参加申し込み詳細は、同窓会報6月号に掲載されます」

情報の共有化

◎同窓会会報を年4回発行します



◎同窓会 HP・Facebook にて各種情報を共有しています。

同窓会
ホームページ



<https://www.tdc-alumni.jp>



Facebook



<https://www.facebook.com/TDCalumni>



同窓会 Web ページのトップ画面

同窓会員からの写真投稿ギャラリーなど

同窓会ホームページでは、同窓会の活動内容や大学の最新情報も掲載しています。

また、会員ページもあり同窓会員向けの情報が満載です。ぜひアクセスしてみてください。ログインするためには、ID とパスワードが必要です。

先輩から卒業生の 皆さんへ・・・

茂木 将

125期・令和2年卒

東京歯科大学卒業後、
東京都立広尾病院歯科口腔外科・有病者歯科にて研修修了
現在、東京歯科大学水道橋病院
口腔インプラント学講座 在籍

Yell
ご卒業おめでとうございます



写真左が茂木先生

Q：研修時代は？

東京都立広尾病院歯科口腔外科・有病者歯科にて2年間研修を行っていました。令和初の歯科医師として誕生した学年ですが、1年目からコロナ渦での研修となりました。特に三次救急の受け入れを主に行うERを中心している病院であったのもあり、一時は東京都におけるCovid-19受け入れ重点病院となっていたため、より一層歯科医療に関しては縮小せざるを得ない状況でした。しかし往診にてCovid-19重症患者に対する挿管前の動揺歯拔牙や心肺蘇生など、あまり出来ない様な事を経験し、最前線で少しでも関わる事が出来たのは自分の中で大きかったと思います。病院歯科なので口腔外科のイメージが強いかもかもしれませんが、有病者の一般治療も行っていました。島嶼医療の役割も果たしていた病院だったので、東京都伊豆諸島や小笠原諸島から急性期の患者様がヘリコプターにて運ばれてきていました。その方々が慢性期に入ると歯科にも依頼が来ていたので、間接的に僻地医療を経験出来たと思います。

Q：今の職場を選んだ理由

現在は東京歯科大学水道橋病院口腔インプラント学講座の臨床専修科生として講座に所属しています。学生時代の臨床実習は約1週間程度で、知っている医局

員の先生方が少なかったため、入局までは未知の世界でしたが皆さん丁寧に教えて下さります。入局の理由は一言で言うと外科処置と補綴学に興味があったからです。

入学前にオープンキャンパスで顎部郭清についての講義を聞いた時、この様な事も行うのかと歯科医師への概念がくずれて色々と学んでみたいと思い歯学部に入學しました。学生時代の大半は口腔外科に興味がありましたが、勉強するうちに卒業間際には補綴学にも楽しさを覚え、そこから外科処置もあり上物は補綴物であるインプラントにも興味を持ちました。部活のOBの先輩から、特に咬合は歯科医としての職務の醍醐味だという話を聞いたからというのもあったからではないかと思っています。

進路を考えた時、はじめは研修修了後に開業医での勤務を考えていました。しかし、やはり最初はゴールドスタンダードに則っているであろう方法を見たい、色々な会社のインプラントに触れてみたいという事から大学を選択しました。実際に入ってみても、午前午後と1日2件の一次手術、GBRなどの骨造成術や歯周外科、周囲炎等のトラブル対応など様々な事を行っているのと色々な先生のインプラントに対しての治療方針や考えが聞ける環境で満足しています。

Q：将来の展望と

新しくチャレンジしたい事は？

日々の診療であの時こうしていれば早く終わって患者さんの負担も少なかっただろう等、色々終わったあとに考えます。オンとオフが曖昧になってきたこの時代に息抜きは大切です。そんな時に私は趣味であるサウナに行き気持ち切り替えています。周りに情報がなく、自分と向き合える時間を得られるからという理由の1つです。研修医時代、仕事終わりにふと行ってみようと思ったのがきっかけで色々調べていたら巷で流行っていたという具合です。医師達が立ち上げた日本サウナ学会という学会まで存在しています。将来は現時点で開業したいと考えていますが、何かしらの形でこの趣味と掛け合わせ事が出来たら面白いなと思っています。日本ではやはり歯が痛くなったら歯医者に行くという文化があるかと思うので入り口は何でも良いと思いますが、何か違う事をきっかけに歯に対する国民の関心が高まったら嬉しいなと強く思います。

Q：後輩に伝えたいこと

幸いな事にどの様に進路を選んだ方が良いのかと相談してもらえただけで幾度かあります。そこで良く話すのは何事もそうだと思いますが、現時点でのゴールを決めてそこから逆算する事を伝えていきます。歯医者の数だけ十人十色それぞれの考え方があるので、迷ったらまずは開業医・大学病院・病院歯科・その他のそれぞれの先輩から聞けるだけ話を聞いてみて見学してみてください。その中で得た皆さんの手札の中から自分の目指す所に近い物・自分に合った物を選んでいって下さい。考える前に行動してみると何か見つかるかもしれません。私はその中で色々と考えも変わり、見学前と後で違いが生まれました。そのためには部活や知り合いの先輩に相談したり、所属していなくても臨床実習などで話す機会は自分次第でいくらでも作れます。自分から歩み寄ってみて下さい。

先輩から卒業生の 皆さんへ……

池谷 侑

125期・令和2年卒

東京歯科大学卒業後、
亀田総合病院で研修修了
現在、東京歯科大学大学院歯学研究科
口腔顎顔面外科学講座 在籍

Yell
ご卒業おめでとうございます

Q：歯科医となった生活はどうか？

思っていたよりも大変で、思っていたよりも楽しいです。諸先輩方のご指導のもと日々奔走しております。コロナ禍で以前のように大勢で集まって何かをすることは出来ませんが、職場の同期との日々のふれ合いが癒しです。

Q：研修時代については？

千葉県鴨川市にある亀田総合病院で1年間臨床研修をさせていただきました。田舎という土地柄、基礎疾患をもった患者さんが多く、診療に際しては注意点等を勉強してから臨みました。総合病院なので他職種の方々との関わりもあり、違った視点から物事をみることを養うことができたように思います。口腔外科だけでなく一般歯科も充実しており、形成やTECの練習をして指導医の先生に見て頂いていました。素晴らしい同期にも恵まれ、診療終了後には経験した症例について談義したり、指導医の先生に教えてもらったことを共有したりしていました。自分次第で如何様にも自己研鑽に励むことができた1年だったと思います。

Q：歯科医師となって楽しさや困難は？

勉強すべき知識の量が学生時代とは違います。診療に必要な内容は当然勉強しなければなりません。尚且つ、症例ごとに合わせた計画、手技が必要となります。智歯抜歯1つとってみても、全く同じ歯はありません。しかし、予定した通りに処置がうまくいくととても達成感があります。もちろんうまくいかないこともあり、その時はどこがだめだったのか反省をして次に臨みます。まだ若輩者なので困難なことの方が多いのですが、その中での達成感や楽しさは日々をこなす原動力となっていると実感します。

Q：後輩に伝えたいことは？

学生時代は日々の勉強や実習が退屈でした。学内の試験や国家試験に合格するため、歯科医師として使う知識を養うため。頭ではわかっているのですが、そのありがたみを真に実感することはできませんでした。しかし、今になってから当時の日々がとても貴重なものだったことに気付かされています。

登院実習では卒業して3年経った今でも使える知識を学ぶことができました。「あの先生はあの時こうやっていたか



ら自分もやってみよう。」というように、歯科医師として使えるヒントがいっぱい転がっています。

座学の勉強は、新しい知識を学んで、整理して、自分で使えるようにする力をつけるのにとっても役立ちます。

「医療業界は生涯勉強」と研修医の時の指導医の先生が言っていました。完全無欠の医療は今のところ存在しません。常に新しい情報をアップデートして臨床の場に活かすことや、診療に必要な技術を身に付けるために自己研鑽を積むことは、我々に与えられた使命であると考えます。自分を成長させるためにどうしたら良いのか、その手段や方法は学生時代での経験が基盤になっているのです。いま学生の皆さんに1つ申し上げるとすれば、日々の生活で与えられたことはとりあえず一生懸命に取り組んでみてください。一生懸命にやったことは決して無駄になりません。

最後に

研修医時代に痛感したのは、「経験に勝る勉強はない」ということです。そしてその試行回数を重ねることはとても大事です。何事も治療に携われる機会があったらどんどんチャレンジしてみてください。

免許を持ち、診断ができるようになり、責任が伴ってきます。辛いことも多いかもしれませんが、必死に模索することで自分を成長させてくれます。つまずいたら、身近な先輩に気軽に相談してみてください。誰でも通る道なので必ず助けてくれますよ。

皆さんと一緒に働けることをとても楽しみにしています。現場で出会った際にはぜひ色々教えてください。

同窓会の
本部・支部の活動
クラス会
開催



多くの支部では、学術講演会、保険講習会を開催して、
臨床や経営など様々な情報交換をしたり、会員・家族レクリエーションなどを開催し、会員の親睦を深めています。
また、同窓会では、卒後 10 年以内で初めてクラス会を開催する学年に支援を行っています。

愛媛県支部からのメッセージ



2022年新人歓迎会の様子



ご卒業おめでとうございます。これまでに苦楽を共にされてきた同級生の皆さんや、学生生活を支えてこられた保護者の皆さん、教職員の方々と共にこの日が迎えられ、さぞかしお喜びのことと思います。

私たちは大学同窓会の地方支部の一つで、ポンジューズで有名な愛媛県にある東京歯科大学同窓会愛媛県支部です。四国の中の九州寄りの県で、柑橘類のほか今治タオルなどでも有名です。現在 35 才から 90 才まで 54 名が所属していますが、多くの会員は大学卒業後、大学や開業医での研修を経て、出身地に帰郷し診療所を営む開業歯科医です。

皆さんは同窓会というどんなイメージをお持ちでしょうか。学生時代に経験されたと思いますが、東京歯科大学には“みんなで頑張ろう、みんなで高め合っていこう”という空気がありますよね。それは同窓会も同じだと思います。愛媛県支部では、若手の先生に、と言っても 30 代～40 代の先生たちですが、学術講習会、保険の講習会など普段の診療に役に立つ企画をしていただいています。新たに帰郷され、支部に入会された方がいると、若手の先生は歓迎会を開催しています。同級生ではないけれど、同世代の先生同士が懇意にできる良い機会になっています。ここ数年ほどはコロナ禍で中止になってしまいましたが、毎年夏には夏のレクリエーションとして、家族ぐるみの食事会なども企画され、家族サービスに一役買っています。

充実した活動を行えているのですが、このような活動を行うには欠かせないものがあります。それは“ひと”です。つまり同窓会会員です。特に若い先生に参加していただくと、同窓会活動がぐんと活気が出てくるのをいつも実感しています。

皆さんはご卒業という大きな節目を迎えられ、今後歯科医師となり、研鑽を積むにつれ沢山の同業の先生と、また社会人として異業種の方々と交流があると思います。どうかその交流に、同窓会というツールも使っていただきたいと思います。そしてより豊かな歯科医師としての人生を送っていただきたい。卒業生の皆様の益々のご活躍を期待しています。

東京歯科大学同窓会愛媛県支部

同窓会ネットワーク

若

若手支援ネットワーク

新年度から、新たに歯科医としての一步を踏み出す先生、研修期間を終了しさらにステップアップを目指す先生、大学院を修了し専門分野で臨床に励む先生、そろそろ開業を考えている先生など、其々の新しい環境でご活躍のことと思います。同窓会本部では、そのような若手の先生方からの相談や質問に対応できるよう、全国の支部、連合会とネットワークをつくりました。「先輩の診療を見学したいけど、どこに行けば良いのかなあ?」「出身地での開業を考えているけど、相談できる先輩がいない・・・」「歯科医師会ってどんな組織なのかな?」「同窓の先生方から直接生の声を聞いて勉強したい」「そろそろ結婚を考えているけど、子育てをしながら歯科医は出来るの?」「クラス会を開催したいけど、どうしたら良いの?」などなど・・・若い先生方の相談や質問の対応をすべく同窓会本部が同窓会員同士の橋渡しをします。昨今のIT社会では、ネットから情報が簡単に検索できるようになりましたが、ネットの情報からだけでは解らないことを、現場の諸先輩と話してみませんか!

ぜひ、同窓会HPにアクセスのうえ、Mail Boxに必要事項を記載して送信してください!お待ちしております。(右図参照)

支援ケース対応例

支援ケース1》》》

[研修医より「来年度以降の就職先を探している」という相談について]

⇒見学先の紹介

今後の進路について、地元、現住所、希望する専門分野(補綴、高齢者歯科など)に応じた診療所の見学を紹介

支援ケース2》》》

[初めてのクラス会開催について]

⇒会則作成、会費支援、連絡先確認、同窓会説明などの支援(卒後5年目、10年目)

支援ケース3》》》

[県人会の開催]

⇒地元の支部と交流をして、研修医が県人会へ参加

◎「同窓会通信掲示板」を設置いたしました!

同窓会では、会員の皆様とのコミュニケーションを円滑に促進するため「同窓会通信掲示板」を設置いたしました。

同期会開催について、災害被災状況、研修会そして就職情報などなど・・・

会員の皆様から直接情報を発信していただける場所にしたと考えております。

是非、以下へアクセスしていただき、ご利用いただければと思います。

<https://tdc-alumni.jp/bbs/>

*閲覧は会員ページから。

ご投稿には、掲示板専用ユーザー登録をお願いしておりますので、よろしくご願ひ申し上げます。



各支部
会員ネットワーク担当
若手の会員各支部担当

本部と各支部が連携をとって対応します。

鳥取 岡山

島根 広島

山口

大分 福岡

佐賀 長崎

熊本 宮崎

鹿児島 沖縄

香川 徳島

愛媛 高知

同窓会本部

相談・質問内容を確認し、適切な関係部署において対応しま

若手同窓会員

質問例

- ★関連病院・診療所見学について
- ★開業について
- ★歯科医師会入会について
- ★各支部・各地域の事業について

まず、同窓会 HP にアクセスします。

東京歯科大学同窓会 HP
<https://www.tdc-alumni.jp>
「MAIL BOX」をクリック!



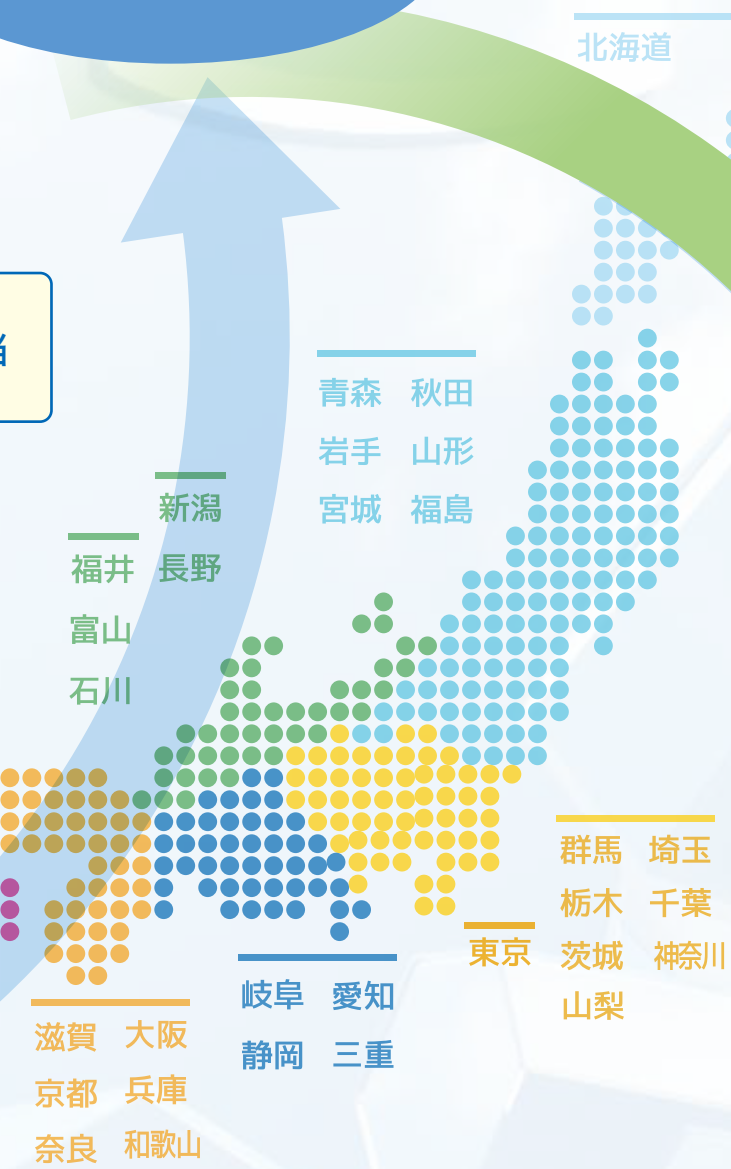
QRコードから
アクセス!!



トップページの「MAIL BOX ご意見・ご質問」をクリックし、「若手ネットワーク MailBox」へ入ります。

- ★氏名
- ★卒業年・在籍学年
- ★連絡先・方法
- ★質問・相談内容

若手ネットワーク MailBox の
 フォームに必要事項を
 記入して送信してください。



先輩から卒業生の 皆さんへ・・・

立花 渉

124期・平成31年卒

東京歯科大学卒業後、
東京歯科大学水道橋病院にて研修修了
現在、むらせ歯科医院勤務

Yell
ご卒業おめでとうございます

Q：今の職場を選んだ理由は？

僕は今、千葉県市原市にあります医療法人社団千友会のむらせ歯科医院にて勤務しております。東京歯科大学水道橋病院にて研修していた時の出向先にお世話になっています。

水道橋病院の群内マッチングの説明会で自分も所属していたパドミントン部の先輩である、村瀬千明先生の名前をお見掛けして、そこから見学をさせていただきました。僕は、研修医の段階から手を動かして診療を学ぶことができるようなところで研修をしたいと考えていたので、むらせ歯科医院での研修を決めました。

研修後は、勤務医としてどこかの診療所で働こうと考えていたところに、理事長先生にお声をかけていただきました。千葉県市原市という縁もゆかりもなかった場所ではありますが、やってみよう！と思い、そのまま決めました。

3年目の現在、当法人では4つの分院を展開しているので、市原市の診療所に加えて、幕張と千葉みなとの診療所にも勤務しています。通勤などは大変ですが、新しく後輩もでき、とても充実した日々を過ごしております。

Q：学生時代にやってあげよかったことは？

勤務医として過ごしていく中で、本当に様々な知識が必要だと痛感しています。僕は院内での診療のほかに、訪問診療にも行っていました。そこでは、いろいろな疾患を抱えた患者さんを診ることになりますし、お薬もたくさん飲まれています。訪問ではドクターは1人なので、その場で自分で解決しなければいけないので大変です。また、院内では多くのお子さんもいらっしゃるの、小児歯科の知識も必要になってきています。正直、学生の頃は小児

歯科の知識だったり、矯正だったりに関してはあまり、興味がわかなかったところもあります。ですが、歯科医師として勤務するようになってからは、興味がある、やりたいことばかりの患者さんを診療できることは少ないので、もっといろいろなことアンテナを張っておくべきだったと思います。そうしたら、将来の進路もまた変わっていたかと思いました。

Q：後輩に伝えたいことは？

僕は、学生時代お世辞にも成績がいいとは言えませんでした。下から数えたほうがいくらいでした。試験に通ればいいや、ぐらいいい気持ちでしたので、本当に今になって大変だと感じています。学生の頃に学んだことをもとにして、歯科医師になってからも勉強が続きます。ずっと学生の頃の知識

のままでは、患者さんに最良の治療は提供できません。僕は今になって、矯正やインプラントについても学ばないといけないなと思っているので、学生時代の資料も取り出して、学び直しているところです。歯科医師になってからは、時間も学生の頃と比べて少ないですし、一生使えるような知識をもっと蓄えておけばよかったと感じています。また、大学に残っている先生とのつながりも大事だと思います。僕の職場には、自分の学年の副担任である竜先生と同級生の先生だったり、クラウンブリッジ補綴学講座の出身の先生がいたり、様々な場面でお世話になった先生の名前を聞く機会が多いです。

後輩の皆さんには、恐れることなく、色々なことにチャレンジして自分の活躍の幅を広げてほしいと思います。



先輩から卒業生の 皆さんへ・・・

脇田 一郎

125期・令和2年卒

東京歯科大学卒業後、
東京歯科大学千葉歯科医療センターにて研修修了
現在、東京歯科大学口腔病態外科学講座在籍

Yell
ご卒業おめでとうございます

Q：学生時代にやっておけば よかったことは？

医療にかかわらないバイトをやっていたらよかったと思います。今後、長い人生で経験できない職業を学生のうちに経験していればよかったと後悔しています。将来、歯科医師以外で活躍できることがあるかもしれません。

また、趣味においては仕事を始めると中々新しいものに手を付けることは難しいので、学生中に勉強、部活以外で夢中になれるものを作ってあげればよかったと後悔しています。夢中になれるものがなければ、勉強をたくさんしてください。個人的な意見ですが、歯科医院でのバイトは登院した時の新鮮さがなくなってしまうので、やらないほうがいいかもしれません。

Q：国家試験対策でやったこと やればよかったことは？

グループ学習が非常に効果的だったと感じます。人それぞれ合う合わないがあるにしろ、一人で勉強していると特に6年生の追い込まれているときは周りが見えなくなってどこを勉強したらいいかわからなくなる時があります。その時、頭の良い友人がいたら一緒に確認してみると、聞いた内容以外にプラスの知識が手に入ると思います。しかし、欠点もあり、仲良くなりすぎてふざけてしまって、集中できなくなることもありますので、注意するようにしてください。

やっていたらよかったことは、先生方に質問をもっとしていればよかったと思います。今、先生側の立場になってみて、問題などの質問の意図が日々の臨床などで理解できるようになってきており、質問を投げてくれた学生に質問が返せるようになってきていると感じています。

大学に在籍している先生方は皆さん

丁寧に返答してくださるので、質問をたくさんしていれば非常にためになっていたのだと後悔しております。

Q：今の職場を選んだ理由は？

現在、東京歯科大学口腔病態外科学講座に所属しており、レジデントの職務に就いております。この職場を選んだ理由としては、この長い歯科医師人生の中で若く体力があるときに、少し特殊な環境に身を置き、自信と普通の歯科診療では学ぶことができない、口腔外科を勉強したかったからです。また、大学病院のため学生への教育もありますが、この経験も将来、研修歯科医や、若手の歯科衛生士への丁寧な指導、育成の方法に役に立つと思ひ大学病院を選択いたしました。

Q：歯科医となった生活は？

大学病院で口腔外科、外勤先では保存修復、歯内療法、補綴治療、美容歯科の診療をしております。卒業してからまだ3年しか診療はしていませんが、この3年間で学生時代では経験できないことをたくさんさせて頂いております。まだ経験不足のため、たくさん壁にぶつかりますが、一つ一つこなしていく楽しさを感じております。また、大学ではレジデントでありながらも大学の研究に携わらせていただいております、主にVR (virtual reality) の研究に携わっております。現在、歯科診療においてもデジタルな診療が主流となってきております。今後の歯科医療の先端の研究をしているという意識と自信をもって仕事に励んでおります。

Q：歯科医師となって楽しさや困難は？

日々、色々な壁にぶつかると思いま

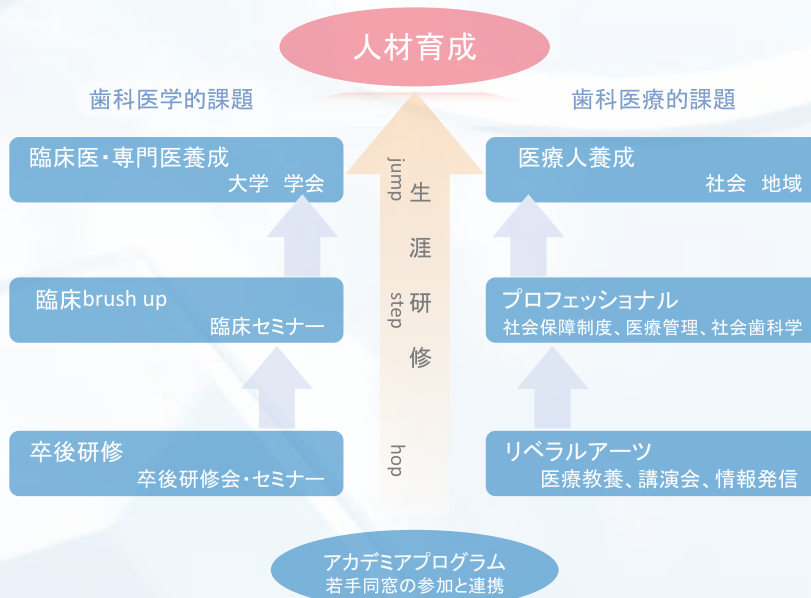


すが、一つ一つ超えていくことに楽しさを感じております。私は大学病院に勤めているので、様々な科とのつながりがあり、仕事の内容やプライベートのことに関して、また、学生時代の先生方と一緒に仕事ができていることが新鮮であり、様々なことに関して学べ、日々楽しく過ごしております。つらい点として、私は左利きなので、診療の際は右手で診療をしないといけないことです。最初は、まったく使えず手も震えており診療もままならなかったのですが、今は少しずつ慣れてきており両手を交互に使えるようになってきております。左利きだから診療にむいていないと不安に思っている学生さんたちは日々診療し、たくさん練習すれば両手を使えるようになり、プラスに運んでくれると思うので、諦めないで頑張ってください。

“TDC Academia”

アカデミアの理念

『歯科医師たる前に人間たれ』の建学の精神を基本に、人間味豊かで、社会性のある人材育成をめざす総合的な生涯研修の場“アカデミア”をつくり、臨床から地域保健、医事に通じた国手となるための一貫した理念に基づいた事業展開をめざすものです。全国の同窓が次代を担う後輩たちへの支援や連携の輪となることを期待しています。



同窓会創立 120 周年を機に新たな同窓会の一つの役割としてアカデミア構想をスタートさせました。これは同窓の生涯研修のために集える場であり、そこには研修事業もあり、歯科医師像の議論もあり、学術や医療制度情報の交換・提供もあり、先輩後輩の交流もあり、全国離れた地でもいろいろ新しい形に発展していくことを願った構想で、究極するところ 120 年の歴史で培われた社会性をもった歯科医の育成そして歯科界の発展を目指したものです。

- 東京歯科大学同窓会は、会員相互の親睦並びに福祉の増進を図るとともに、母校の発展に寄与することを目的としています。そのために、同窓会員に対する学術的支援、困ったときの支援、各種情報の提供、さらに大学への協力などを行っております。
 - 本学の学生も「**準会員**」となり（会費等はなし）、また卒業5年目までは「**新進会員**」として、さらに卒業10年目までは会費等も軽減されます。
- 最近は特に卒業直後の若手会員の支援に力を入れております。

世代・地域を超えた同窓の交流

(総務・厚生部、広報部)

ネットワークやいろいろな企画を通して先輩後輩の交流をひろげます

情報の共有化

(総務・厚生部、広報部)

全国どこでも、だれでもが同じ恩恵を受けられるような情報化を目指します

学術事業

(事業推進部)

歯科医学的課題 医学の知識や技術など純粋な学問としての研修
 歯科医療的課題 社会を意識した歯科医療人を目指した研修

制度のプロフェッショナルづくり

大きな視点で考える人材、動かしていける人材を育てます

(渉外部)

学術事業より



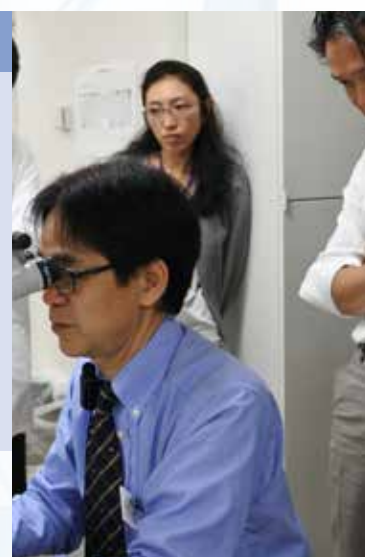
卒後研修

臨床研修医から若手歯科医師を対象に、診査診断、情報収集と記録、治療計画、予後予測、プレゼン方法を学び、生涯研修の基本を身につけることを目的としています。各研修会、症例検討会、ベーシックセミナーを通して、日常臨床の基本を学べます。



臨床セミナー

すべての臨床医へ、基本手技から専門的知識と技術、先進医療など、臨床レベルの向上につながるセミナーを提供することを目的としています。セミナーを通じ、日常臨床のスキルアップ、臨床対応の選択肢が広がるよう、各専門的立場の先生方からお伝えいたします。



医療教養

若手歯科医師からベテラン歯科医師まで、教養学習を通して社会性や歯科医療倫理観を高めることを目的としています。講演会、研究発表、グループ活動報告などの情報発信を通して、歯科医療的課題について共に研鑽いたします。

組 織



同窓会には、9,000人以上の会員がいて、全国各地および大学に合計107支部がおかれ、同窓会員は原則いずれかの支部に所属することになります。

新進会員については、所属する支部が決まるまでの期間は本部直属扱いとなります。

また、全国11の地域別に地域支部連合会がおかれ、地域内の支部の連携を密にして、同窓会の発展に関する協力機関となっています。さらに、同窓会本部には、会長、副会長、専務理事、理事、監事が置かれ会務を執行しています。このように、支部、地域支部連合会、同窓会本部と3層でそれぞれ活動しながらも、常に連携のとれた同窓会活動を行っています。

◆ 同窓会本部 役員構成

会 長
副 会 長 (5名)
専務理事
常任理事 (10名)
理 事 (11名・地域選出)
監 事 (3名・うち常任監事1名)

◆ 同窓会本部 委員会構成

①常置委員会

【総務・厚生部】 総務厚生委員会
ゴルフ大会委員会
新進会員のつどい実行委員会
会員活動推進委員会

【渉外部】 渉外委員会
東歯同窓国会議員を支える会

【広報部】 広報委員会 (会報・HP・ネットワーク)

【事業推進部】 学術委員会 (卒後研修)
(臨床セミナー)
(医療教養)

②特別委員会

③地域支部連合会

【選挙管理委員会】

北海道地域支部連合会 【10支部】
東北地域支部連合会 【6支部】
関東地域支部連合会 【16支部】
東京地域支部連合会 【39支部】
信越地域支部連合会 【5支部】
東海地域支部連合会 【4支部】
北陸地域支部連合会 【3支部】
近畿地域支部連合会 【6支部】
中国地域支部連合会 【5支部】
四国地域支部連合会 【4支部】
九州地域支部連合会 【8支部】

大学

大学支部

*各支部への連絡先は同窓会本部

(TEL 03-6261-6631) にお尋ねください。

- ◎ 東京歯科大学同窓会主催の各種セミナー、講演会等は、無料もしくは割引料金で受講できます。
- ◎ 新進会員のつどいは無料で参加できます。
(他大学同窓会主催のセミナー等にも無料で受講できるものがあります。)
- ◎ 支部、地域支部で開催される学術講演会、保険講習会に参加できます。
- ◎ 皆さんの生の声を支部長を通して本部に伝えることができます。
- ◎ 80歳、100歳を迎えられるとお祝い金が贈呈されます。また、死亡時には弔慰金が支払われます(会費未納者には支払われません)。
- ◎ 年4回発行の会報で、同窓会、クラス会、大学の情報がわかります。
- ◎ 同窓会ホームページのメールBOXから質問、相談ができます。

【同窓会員のルール】

- ◎ 支部に所属します。
- ◎ 年度会費は、期日までに支払います。
- ◎ 住所、勤務地の変更等は、必ず届出ます。

【同窓会事務局からのお願い】

- ◎ 事務局は毎週土曜・日曜はお休みをいただいております。
なお、電話での対応は平日9:30~17:30とさせていただきます。ご協力お願いいたします。
- ◎ 事務局では、ご質問に対して正確を期すため、すぐにお返事ができない場合もあります。
ご了承ください。

【会費】

- ◎ 同窓会費 年額 20,000円
(卒後10年目までは年額 10,000円)
- ◎ 同窓会費は各支部にお支払いください。
銀行口座からの自動引き落としも可能です。
- ◎ 「**新進会員**」は本部に直接お支払いください。
- ◎ 東京歯科大学の勤務・大学院生は、大学支部を通じてお支払いください。
- ◎ なお、支部、地域支部連合会によっては、別途、支部会費、地域支部連合会費が必要な場合もあります。
詳しくは、各支部にお尋ねください。

【入会後の諸手続についてよくあるご質問】

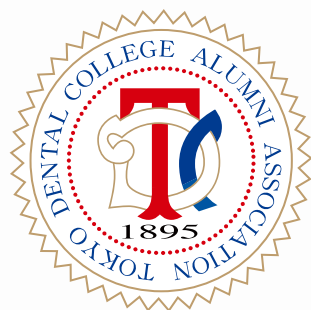
- Q1) 新進会員です。近く転居します。手続きは必要ですか。
住所、氏名等登録事項変更届を同窓会事務局に提出してください。
- Q2) 現在勤務医です。支部に所属していないので、支部に所属したいと思います。
手続き方法を教えてください。
勤務地または居住地の支部に所属することになります。
支部長に連絡をしてください。
支部への連絡先が不明の場合、同窓会事務局にお問い合わせください。
- Q3) 勤務医です。新進会員の5年間が終わります。何か手続きは必要ですか。
支部加入手続きが必要となります。Q.2を参照してください。
(新進会員期間終了後は必ずいずれかの支部に所属します)
- Q4) 勤務医です。勤務する地域の支部に所属しています。今度、開業することになりました。
支部移動の手続き方法を教えてください。
新しく開業する地域(または居住地)の支部長に連絡してください。
支部への連絡先が不明の場合、同窓会事務局にお問い合わせください。
- Q5) 現在、歯科の仕事から離れています。支部に所属が必要ですか。
離職等により、勤務地がなくなった場合でも、居住地の支部に所属します。
居住地の支部長に連絡してください。
支部への連絡先が不明の場合、同窓会事務局にお問い合わせください。

この同窓会案内は、学祭ポスター応募作品 秋元 侑真さん
(4年・青森県青森市出身)のデザインを基に作られています。

【デザインイメージ】

表紙 (ピンク)：学生が個々の能力を生かして1つの大きなものを
作り上げるイメージで作成しました。

ページ内 (青)：ハイドロキシアパタイトの六角柱を爽やかに
イメージしました。



東京歯科大学同窓会

東京歯科大学同窓会事務局

〒101-0061 東京都千代田区神田三崎町 2-9-18

[水道橋校舎 別棟 6階]

TEL:03-6261-6631
(9:30-17:30 土日祝休み)

FAX:03-3264-4859

<https://www.tdc-alumni.jp>

